



支部長 佐藤喜代志  
(新庄土地改良区理事長)

【いあじゅり】

水土里ネットやまがたは、土地改良事業を適切に実施するため、県内の市町村と土地改良区が協同で組織している団体です。土地改良事業は県民生活や市町村行政と深くかかわっていますが、その内容はあまり知られていないという声をいただきました。そこで、私どもの活動や土地改良事業の内容を広く知ってもらうため、この度、広報紙を発行することにいたしました。皆さんからも、お気軽にご意見などをお寄せいただき、この広報紙が、コミュニケーションの場として活用できればと願っています。

## ..... 力を入れている支部活動の内容 ..... 副知事と意見交換を行いました .....

最上支部では、会員の皆さんから寄せられた意見、要望を踏まえ、次の3点に重点を置いて支部活動を行っています。

- (1) ほ場整備に関連した畑作振興に関する研修や事例の収集
- (2) 土地改良区の統合整備など、運営基盤強化への支援、情報提供
- (3) 非農家、市町村、改良区組合員向けの広報紙等を発行し、広く情報を発信



今後この広報紙は、次のような内容で、年2～3回発行する予定です。

- ・土地改良区活動や土地改良施設の紹介
- ・土地改良施設や農業農村の役割
- ・優良営農事例や集落活動事例
- ・農業農村整備に関するお知らせ等

## ..... H31 土地改良予算が増額されます .....

国の農業農村整備予算に、H30年度2次補正と31年度当初予算を合せて、前年比651億円増の6451億円が計上されました。6割削減されたH22年度以前の水準を大きく越える額です。マスコミには「土地改良に重点投資」「異例の大幅増」「統一地方選、参院選にらみ」等の文言が躍っています。最上地域で要望が殺到しているほ場整備事業の早期採択に弾みがつきそうです。ほ場整備事業は、高齢化に悩む農業農村の特効薬になりうる起爆剤です。営農計画、調査設計体制、施工業者確保など、受入れ側の課題も山積します。地域が一致協力してこのチャンスをものにしたいものです。

7/31、最上支部では、若松副知事との意見交換会を開催しました。副知事からは、酷暑続きで渇水を心配する質問がありました。各土地改良区とも、水利施設の整備のおかげで、何とか凌いでいる旨の報告がありました。

また、最上地域各地で実施しているほ場整備において、高収益作物や担い手育成に取り組んでいる事例を紹介したところ、副知事からは、最上地域の畑作は県内の成功事例であり、自信と目標を持って取り組んで欲しい旨のお話がありました。また、総合支庁長、産業経済部長、県の農村計画課長からも、土地改良施設や地域農業への支援に関する発言をいただきました。最上の土地改良区と県幹部が一堂に会する初めての取組みで、内容の濃い大変有意義な時間となりました。出席いただいた県当局者の皆さんに感謝申し上げます。